

スーパー・メジャーズと中国：シェル（中の 2）

エイジラム研究所 上席研究員 木村 徹

CNPC と Sinopec による外国進出——上流部門を中心に¹——

<CNPC>

CNPC は、1992 年に最初に実施したペルー進出の成功を背景にして、その後、1996、97 年にはスーダン、カザフスタン、ヴェネズエラへ進出した。その結果、2004 年初め頃までの CNPC による外国石油・ガス開発への投資に関しては、スーダンを中心とする「北アフリカ」、カザフスタンを中心とする「中央アジア・ロシア」、さらにヴェネズエラを中心とする「南米」の 3 つの戦略的ゾーンがある、と指摘されていた（中国の国土資源部石油・ガス戦略研究センターの潘継平博士による）²。

一方、西アジアはその頃までは、CNPC による戦略的投資の対象になっておらず、その点で、イランへの進出を働きかけていた Sinopec とは対照的であった。しかしその後、CNPC の西アジア進出に関しては、特にイランとの交渉が注目されるようになった。他方、「中央アジア・ロシア」に関しては、従来のカザフスタンに加えて、ロシアの東シベリア地域への進出が実現している。

以下では、CNPC による進出の主要対象国について、その状況を進出時期の順に紹介する。

ペルー：

CNPC は 1992 年、ペルーで Talala 油田の開発権を取得した。これは生産が始まってから 100 年の歴史を持つ古い油田で、Exxon が 1980 年から 1990 年までオペレーターを務めていた時期に、すでに枯渇が大きく進んでいた。1992 年にこの開発権が売りに出された時、中国国内での反対にも拘らず、CNPC はそれを取得し、この油田の原油生産は CNPC の操業の下で 1997 年には 7,000b/d を上回るに至った。CNPC のこの国に対する進出において最も重要な事実は、同社が EOR（Enhanced oil recovery; 石油増進回収）技術を含む中国の開発技

¹ 以下の記述は、特に断らない限り、各社の年報・その他資料、Xu (0703)、Lewis (0703)、塩原 (0712) による。

² Consulate-General of the People's Republic of China in Houston, "US dissuades Sinopec from bidding in Iranian oil-field - China/the US/Iran, an energy game" (CNPC のホームページによる。)

術を外国で初めて使って成果を挙げたことである、とされている。

スーダン：

CNPC は 1996 年、鉦区 1、2、および 4 の 40% の権益を取得し、そのオペレーターを務めることになった。その後、CNPC の開発作業によって、同鉦区における原油生産能力は急速に上昇した。CNPC はこれと平行して、原油輸出用に全長 1,506km のパイプラインの建設を行なった。25 万 7,000 b/d の送油能力を持つこのパイプラインを使って、スーダン港から最初の原油輸出が行われたのは 1999 年 8 月である。

一方、2000 年 5 月には、CNPC が建設したハルツーム製油所（常圧蒸留能力 5 万 b/d）が運転を開始した。2001 年 3 月には CNPC の給油所におけるガソリン・軽油の販売、その翌月には同じくジェット燃料油の販売も始まり、さらに 2002 年には CNPC の 1 万 5,000 トン/年のポリプロピレン製造工場が運転を始めた。

上流部門では、上記の鉦区に加え、2004 年から 2005 年にかけて鉦区 3 および 7（同社が 41% の権益を持つ）で 3 つの油田が発見され、2006 年から 10 万 b/d の原油が生産されている。また、鉦区 6（同じく 100%）でも 2004 年 3 月から 1 万 b/d 余りの原油が生産されるようになり、2006 年半ばには同鉦区における生産能力は 10 万 b/d に上昇している。2006 年現在、CNPC が操業している 10 の油田からは 28 万 5,000 b/d の原油が生産されている、と推定されている。

カザフスタン：

CNPC は 1997 年、西部の Aktobe 油田に参入し（権益 60.3%）、オペレーターになった。その後、この油田の原油生産は 12 万 b/d と、当初の 2 倍に増大している。CNPC はカザフスタンでは、6 社の最良外国企業の 1 つに含まれている。

2003 年 8 月、CNPC は Saudi Nimur Petroleum が持っていた北西部の North Buzachi 油・ガス田の 35% の権益を取得し、次いで同 10 月には、シェヴロンが持っていた同油・ガス田の残りの 65% を取得し、同油田を完全に手に入れた。

2005 年 8 月、CNPC はカナダ企業 PetroKazakhstan がカザフスタン中央部に有する石油・ガス権益を 41 億 8,000 万ドルで取得したが、これは同社の外国における最大の権益取得であった。2005 年 12 月には、上記の Aktobe 油田、その他の原油を中国へ送る石油パイプラインが完成した。将来は、カスピ海北部にある Kashagan 油田がこのパイプラインに対する

原油の主要供給源になる見込みである。

なお、CNPC は 2006 年 7 月、カザフスタンの国営石油・ガス会社 Kazmunaygas に対して、PetroKazakhstan の株式の 33% と同社石油精製子会社の株式の 50% を譲渡し、さらに同年 8 月には、PetroKazakhstan の株式の 67% を PetroChina に譲渡した³。

また、CNPC は 2006 年から、ロシアの民間石油会社の最大手である Lukoil との間で、石油・天然ガス分野における協力を進めており、カザフスタンでは、クムコル油田と北ブザチ油田の 2 つのプロジェクトを共同で実施している。クムコル油田では 2006 年に石油 340 万トンと天然ガス 1.19 億 m³ を生産しており、北ブザチ油田における 2006 年の石油生産量は 130 万トンであった。さらに、Lukoil は 2007 年 6 月、同社と CNPC が共有するカザフスタンの Zao Turgai Petroleum が 2008 年から中国に原油を供給することを明らかにした⁴。

ヴェネズエラ：

CNPC は 1998 年 2 月、5 月にそれぞれ Intercampo、Caracoles の両油田を取得した。ここでの操業は、CNPC の 1 つの成功モデルである、と言われており、生産量は 2000 年末までに 3 倍の 4 万 b/d になり、その後も増加している。

2001 年 4 月、CNPC はヴェネズエラ国営石油会社（PDVSA）とオリマルジョン開発に関する協力協定に調印した。将来、生産されるオリマルジョンは中国向けに供給される予定である。

さらに 2007 年 11 月、CNPC はスマノ油田の探査・開発権を取得した。この油田は CNPC と PDVSA の合弁会社であるスマノ石油によって開発されることになっており、CNPC は同社の 40% を保有している⁵。

イラン⁶：

2000 年 8 月、CNPC はイランと同国南部で 19 本のガス井を掘削する契約を結んだ。しか

³ この部分は、“FACTBOX-Overseas acquisitions by Chinese oil firms”, *Reuters*, February 5, 2008 による。以下では、*Reuters* (080205) と略す。

⁴ 「CNPC とロシア民間石油最大手のルクオイルが提携」、*第一財經日報*、2007 年 9 月 11 日

⁵ この部分は *中国石化新聞網* (2007 年 11 月 15 日) による。

⁶ 以下の資料による——CNPC ホームページ; F. Fesharaki, “Energy and security issues: perspectives on Iran, India, and China”, July 12, 2007. 以下、Fesharaki (070712) と略す; “China to double investment in ageing Iran oilfield”, *Reuters*, March 27, 2007; “China CNPC in talks to develop giant Iranian gas field”, *Reuters*, October 24, 2004; “China's CNPC close to MoU on \$3.6B Iran LNG Project”, www.gulfoilandgas.com, January 12, 2007; “CNPC to invest US\$3.6b in Iran's South Pars gas block”, *AFX News*, January 15, 2007

し、この契約はガス田の開発には結びつかなかったようである。その後、CNPC は 2 ヶ所で石油開発に従事することになった。まず、2004 年 5 月、CNPC はカナダ企業 Sheer Energy の子会社の買収を通じて、イラクと国境を接するフゼスタン州にある Masjed-i-Suleiman 油田——イランのみならず中東で最初の商業的な石油発見がなされた古い油田——に関してサービス契約を結ぶことになった。この契約の詳細は明らかではないが、CNPC が寄与する生産増加分からの収入に関して、最初 3 年間に一定の配分を受ける、というようなものではないか、と推察される。しかし、いずれにせよ、これまでのところ、大きな成果は伝えられていない。次いで、CNPC は 2005 年 6 月、ザグロス山脈地域にあるブロック 3 に対する探鉱・開発権を取得した。

以上のプロジェクトが比較的小規模なものであるのに対して、同社は 2007 年初めから、ペルシャ湾にある South Pars ガス田（ブロック 14）の開発ならびに LNG プラント（生産能力 450 万トン/年）の建設、という大規模プロジェクトに関してイラクと交渉を行なっている。

なお、すでに 2005 年、PetroChina はイラクとの間で、山東省の唐山基地向けとして 300 万トン/年の LNG——South Pars ガス田のブロック 11 で生産されるガスを原料とする——を輸入するための覚書（MOU）を取り交わしている（これに関する協議では、ガス開発も議題になっていたようである）。また、これも石油・ガス開発そのものではないが、CNPC は 2006 年には、イランで大規模な 3 基のコンデンセート蒸留装置の建設にも係わっている。

インドネシア：

2002 年 4 月、CNPC (PetroChina) は Devon Energy から石油権益を取得した。ただし、CNPC が取得した油田における原油の生産量は 2000 年の 3 万 8,000b/d から 2001 年の 4 万 6,000b/d に上昇した後、2002 年には 4 万 2,400b/d、2003 年には 4 万 500b/d、さらに 2004 年には 3 万 6,600b/d に低下している⁷。

ナイジェリア：

2006 年 5 月、CNPC は 4 つのブロックの探鉱権を取得すると同時に、北部にある Kaduna refinery（常圧蒸留能力 11 万 b/d）に対して投資を行なう意思表示を行なった⁸。しかし、2007 年 5 月に行われた入札では、Sinopec を含む 4 社——うち 2 社はオバサンジョ大統領（当時）と近い関係にある、と言われている——から成る Bluestar コンソーシアムに敗れ、この製油

⁷ インドネシア駐在アメリカ大使館資料（“Petroleum Report Indonesia” 各年版）による。

⁸ “Nigeria awards 14 exploration blocks in mini-bid round”, *Dow Jones*, May 19, 2006

所を手に入れることはできなかった⁹。もっとも、この投資の目的は、①ナイジェリア政府による民営化計画に対応して、CNPCがこの製油所を買収すること、②反政府組織による攻撃で閉鎖されていたこの製油所を CNPC が改修すること、あるいは、③それら両方を含むもの、のいずれにあったか、必ずしも明らかではない。

しかし、CNPC を含む中国の石油会社——Sinopec と CNOOC もナイジェリアの石油開発に進出している——が石油開発の権利を得るために、石油の下流部門のみならず、水力発電、その他の事業への投資の要請を受け入れようとしていることは事実である¹⁰。

なお、すでに触れた通り、シェルが提示したナイジェリア海上 2 鉱区の売却の交渉では、CNPC は CNOOC と同様、敗退している。

ロシア：

2006 年 10 月、CNPC は Rosneft と東シベリアにおける石油の探鉱・開発を目的とした合弁会社、Vostok Energy の設立に合意した。持ち株比率は CNPC49%、Rosneft51%である。同社は 2007 年 7 月に行なわれた入札で、東シベリア（イルクーツク地方）における 2 つの鉱区を落札した。これら鉱区はすでに生産を行なっている Verkhnechon、Talakan 両油田の近くにある¹¹。なお、CNPC と Rosneft との関係を理解するための 1 つの重要な事例を本稿の末尾に〈参考〉として添付したので、参照されたい。

また、2007 年 12 月には、CNPC はヤクート共和国の石油・天然ガス開発事業にも意欲を示していることが明らかになった。ヤクート（サハ）共和国政府筋によると、CNPC はヤクート共和国の石油・天然ガス田試掘への出資につき事業化可能性調査を行なうことを明らかにしている¹²。

ミャンマー：

2007 年 1 月、CNPC はミャンマー政府との間で、同国西部の深海鉱区（AD-1、AD-6 および AD-8）において石油・天然ガスの探鉱を行なう契約を結んだ。なお、CNPC はすでに、

⁹ “Obasanjo ally buys second Nigerian refinery”, *IOL*, May 28, 2007; http://www.iol.co.za/index.php?set_id=1&click_id=86&art_id=nw20070528153015664C733960

¹⁰ “China, Nigeria sign oil supply pact”, *Xinhua*, July 9, 2005; “NIGERIA - China eyes gas E&P”, *APS Review Gas Market Trends*, August 1, 2005; “CNPC may expand its Nigerian oil refinery”, *China Trade News*, March 3, 2008 などによる。

¹¹ 竹原美佳、「中国：国有企業の国外進出に変化の兆し」、*JOGMEC* ホームページ、2007 年 8 月 17 日; “Rosneft, CNPC close to registering joint oil refinery venture”, *Interfax*, September 25, 2007

¹² 「CNPC、露ヤクート共和国の石油・天然ガス開発事業に意欲」、*俄新網(RUSNEWS.China)*、2007 年 12 月 14 日

ミャンマー近海のガス田 (A-1 鉱区および A-3 鉱区) で生産される天然ガスをパイプラインで中国向けに供給する計画の FS を実施している¹³。

サウジアラビア :

中東ではイランを除くと、CNPC の石油・ガス開発事業への参入は見られない。ただし、CNPC はサウジアラビアでは、2007 年 4 月、Stisco (Specialized Technologies for Industrial Supplies Co.) とサービス契約を締結し、同国の油田開発に協力することになった。協力の内容は、CNPC の子会社であり、大慶油田のオペレーターである Daqing Oilfield Co. がその経験と技術を活かして、Stisco に対して同国の砂岩油田 (sandstone oil fields) の開発について技術を供与する、というものである¹⁴。

その他の諸国 :

以上の諸国の他にも、CNPC は旧ソ連諸国 (トルクメニスタン、アゼルバイジャン)、アフリカ (リビア、アルジェリア、チャド、ニジェール)、西アジア (オマーン、シリア、イラク) などへ進出している。2006 年現在、同社は世界の 25 カ国で 60 プロジェクトに参加しており、外国におけるその原油総生産量 (権益原油以外も含む) は 100 万 b/d を超え、さらに 2007 年には 6,023 万トン (50 トン/年 = 1b/d で換算すれば約 120 万 b/d) に達している。

これらの進出先のうち、例えばエクアドルでは、CNPC は 2006 年に Sinopec と組んで、EnCanada の保有する石油・ガス資産を買収し、また、シリアでも同年、インドの国営石油会社 (ONGC) と組んで、PetroCanada の保有する権益の 37% を取得した¹⁵。さらにウズベキスタンでも、同年、CNPC、Lukoil がそれぞれ 20% の株式を握る石油・天然ガス探鉱のコンソーシアム (アラル海ファンド) を通じて、アラル海付近における 2 件の石油・天然ガス探鉱事業を行なうことになった。

CNPC の蔣潔敏総経理は 2007 年 8 月、同社が最近、海外 4 カ所で重要な石油・ガスの発見に成功し、これにより海外における同社の総生産量 (権益原油以外も含む) が 5~10% 増えることを明らかにしている。これらの重要な発見とは、モンゴルおよびチャドにおける埋蔵量各 1 億トン以上の石油、トルクメニスタンにおける埋蔵量 4,000 億立方メートルの天然ガス、さらに、カザフスタンにおける石油・天然ガスを意味している¹⁶。

¹³ 「CNPC、ミャンマー近海ガス田の天然ガス供給量獲得——中緬エネルギールート、さらに拡大」、中国石化新聞網、2007 年 9 月 14 日

¹⁴ “PetroChina unit signs oil service pact with Saudi's Stisco”, *MarketWatch*, May 15, 2007

¹⁵ Reuters (080205)

¹⁶ 「CNPC の海外における 4 つの重要な発見」、緑港燃気資訊網、2007 年 8 月 27 日

なお、PetroChina はカタールとの間で、中国国内における製油所および石油化学工場の建設につき、協議を行っている¹⁷。これが実現すれば、後述の Sinopec と Saudi Aramco による製油所および石油化学工場の建設、さらに、同じく Sinopec のクエート石油との同様の計画に続くものになる。また、2008 年 4 月、PetroChina は QatarGas およびシェルとの間で 300 万トン/年の LNG を 25 年間にわたり売買する契約に調印した¹⁸（なお、2008 年 2 月には、カタール産 LNG を PetroChina の大連 LNG 基地向けに供給することにつき原則的合意が成立した、と伝えられていた¹⁹）。

以上に述べた CNPC の外国進出において注目すべき点は、次の通りである。

まず、CNPC は他の 2 社に先立って 1990 年代初から多くの国へ進出してきた。その成果として、同社の外国における原油生産はかなり大きな伸びを記録している（現在はスーダン、さらにカザフスタンへの依存度が高いと見られる）。進出先は、アフリカ、中央アジア・ロシア、南米、西アジア、東アジアなどにおける多くの国々である。

次に、進出の方式として、上流部門とともに——上流部門への進出を果たすために——製油所、その他の下流部門への投資も行う場合がある（スーダン、ナイジェリアなど）。

さらに、天然ガスの輸入に係わる進出としては、イランにおけるガス開発（LNG の輸入に関連して）の事例が見られ、また、ミャンマーでは CNPC は他社が開発した天然ガスをパイプラインで中国へ輸入する計画を進めている。

なお、CNPC はカタールとの間で——上流部門進出に関するものではないが——、LNG 輸入に関する交渉と平行して、中国国内における製油所・石油化学工場の建設についても交渉を行なっている。

< Sinopec >

Sinopec は CNPC より約 10 年遅れて外国への進出を始めた。2001 年 1 月、Sinopec は外国における石油・ガスの探鉱・開発に従事する子会社として、Sinopec International Petroleum Exploration and Development Company Ltd. (SIPC) を設立した²⁰。Sinopec のホームページに

¹⁷ “Qatar in talks to form joint venture with PetroChina”, *MEED*, December 3, 2007

¹⁸ CNPC のホームページによる (“PetroChina, Qatargas and Shell sign first long-term Qatar-China LNG deal”,

¹⁹ “PetroChina secures LNG from Qatar for Dalian terminal”, www.energycurrent.com, February 14, 2008 (<http://www.gasandoil.com/goc/company/cns81077.htm>)

²⁰ “Mergers and acquisitions by China's petroleum and chemical companies”, *China Chemical Reporter*, June 6, 2007. 以下では、CCR (070606) と略す。

よると、2006 年末現在、アフリカ、ロシア・中央アジア、米州、西アジア、および東アジア・太平洋の各地域で 35 の石油・ガスパロジェクトが実施されている²¹。さらにその後も、新しいプロジェクトが追加されている。

以下では、Sinopec による進出の主要対象国について、その状況を進出時期の順に紹介する。

ナイジェリア：

Sinopec にとって、ナイジェリアは外国の石油・ガス開発において最初に進出した国である²²。2003 年、Sinopec は同国デルタ地帯にある Stubb Creek 油田の権益を取得した。次いで 2004 年、Sinopec は OML (Oil Mining Lease) 64、66 の 2 つの鉱区を同国の国営石油会社、Nigerian National Petroleum Corporation (NNPC) と共同で開発する契約を結んだ²³。上記の Stubb Creek 油田は 2003 年末頃から生産を始め、その後、約 4,000b/d の原油を生産しているようである²⁴。

他方、Sinopec は CNPC および CNOOC と同様、ナイジェリアにおける石油精製への投資にも関心を示してきた。最近では 2008 年 4 月、中国の石油 3 社がインドの Oil and Natural Gas Corp. (ONGC) と並んで、デルタ地帯における製油所の建設に同意した、というナイジェリア石油資源省の情報が伝えられている²⁵。これら 3 社は共同で 1 つの製油所を建設することを検討しているようであり、その規模は 45 万 b/d 程度である、と言われている²⁶。

ただし、同国における最近の製油所建設への動きを辿ると、これらの「計画」がそのまま実現するかどうか、ここ暫く見守る必要があるように思われる。そもそも、同国には 4 つの製油所があるが、それらが反政府派の攻撃によって閉鎖されたり、十分に稼動しなかったりしたという事情も手伝って、国内需要を満たすためには不十分であると判断されており、2006 年には製油所建設に関して 18 件の新規投資が認可されている。しかし、同国の石油製品価格に対する統制により製油所の採算に問題があることから、殆ど全ての計画は放棄されている²⁷。

²¹ Sinopec のホームページによる (“Joint venture and cooperation at overseas”)。

²² “Sinopec to start oil production in Nigeria this year”, *People’s Daily*, March 31, 2003; “SHOEI wins two overseas projects”, *SinoCast*, June 12, 2004 (<http://www.gasandoil.com/goc/company/cns42274.htm>)

²³ “Nigeria approves deal between NNPC and Sinopec”, *This Day*, April 14, 2004 (<http://www.gasandoil.com/goc/company/cna41862.htm>); “Sinopec Henan oilfield in study of Nigeria oil prospects”, *RIGZONE.COM*, April 29, 2004 (http://www.rigzone.com/news/article.asp?a_id=12758)

²⁴ “NIGERIA - China eyes gas E&P”, *APS Review Gas Market Trends*, August 1, 2005; “Sinopec may build refinery in Nigeria”, *Wall Street Journal*, April 6, 2006

²⁵ “Analysis: India, China to aid Nigeria oil”, *UPI*, April 17, 2008

²⁶ “Nigeria says China, India to build it oil refineries”, *AFP*, April 15, 2008

²⁷ “Africa plans a slew of crude refineries, but only one likely”, *Gulf Times*, March 12, 2008

また、上記 4 つの製油所のうち、3 つの製油所は民営化の方針に沿って、2007 年に Sinopec を含む企業グループに買収されたが、その後、理由は明らかでないが、この買収は撤回されている²⁸。

イラン：

2003 年、Sinopec はイラン中部にある Zavareh-Kashan Block の探鉱権を取得したが、成果をあげることはできず、最終的には 2006 年、同ブロックで掘られた第 4 井が商業量の石油生産に失敗したため、契約条項にしたがって探鉱プロジェクトを放棄するに至った²⁹。

2007 年 12 月、Sinopec はイラン政府との間で覚書 (MOU) を取り交わし、同国南西部のフゼスタン州にある Yadavaran 油田——大油田と言われる Azadegan 油田に隣接している——の開発を行なうことになった。同油田の開発は 2 つの段階に分けて実施され、生産量は第 1 段階 (4 年間) では 8.5 万 b/d、第 2 段階 (3 年間) ではさらに 10 万 b/d、合計 18.5b/d に上ると言われている³⁰。

Sinopec はすでに 2004 年 10 月、イランとの間で上記油田の開発に関する覚書を取り交わしていたが、この覚書は 2007 年 1 月に失効していた。新しい覚書はそれに代わるものとして作成された。

なお、以前の覚書には、①同油田開発プロジェクトへの参加比率は Sinopec が 51%、インドの ONGC が 29%、イラン、その他の国の会社が 20%であること、②その開発が進んだ後、イランは 15 万 b/d の原油を中国へ輸出すること、さらに、③イランは年間 1,000 万トンの LNG を 25~30 年に亘って中国へ輸出すること、などが含まれていた、と伝えられる³¹。しかし、新しい覚書はこれらについて触れていないようである。

²⁸ “Obasanjo ally buys second Nigerian refinery”, *IOL*, May 28, 2007 (http://www.iol.co.za/index.php?set_id=1&click_id=86&art_id=nw20070528153015664C733960); “Government approves Blue Star withdrawal”, *Oil and Gas Insight*, July 2007 (<http://www.oilandgasinsight.com/file/47311/government-approves-blue-star-withdrawal.html>)

²⁹ “China’s Sinopec fails to find oil in central Iran block”, *Platts Commodity News*, October 2, 2007 ; その他

³⁰ “China’s Sinopec, Iran ink oilfield deal”, *Xinhua*, December 10, 2007

³¹ “China to develop Iran oil field”, *BBC*, November 1, 2004; “China rushes toward oil pact with Iran”, *Washington Post*, February 18, 2006; “Head of China’s Sinopec says Iran’s LNG offer price too expensive”, *Platts*, April 10, 2007



(出所) “China’s Sinopec, Iran ink oilfield deal”, *Xinhua*, December 10, 2007

写真：テヘランにおける上記覚書の調印式の様子

一方、Sinopec はイランの下流部門にも進出の動きを見せている。2003 年末には、同社がそれまで実施していたテヘラン、タブリーズなどの製油所の改修工事、Neka の貯油設備建設などが完了している³²。さらに 2006 年には、Sinopec はイランとの間で、Arak 製油所の改修工事に関する契約を結んでいる。改修はこの製油所のガソリン生産量引き上げを目的としている。イランではガソリンが不足しており、大量のガソリンが輸入されている³³。

サウジアラビア：

2004 年 3 月、Sinopec は“Saudi Gas Initiative”の下でブロック B のガス探査権を取得した。同社が探査を実施する地域は Rub Alkhali Basin であり、作業は Saudi Aramco が 20% を保有する合弁会社によって行なわれる³⁴。しかし、現在までのところ、この会社によるガス開発は成功するに至っていない³⁵。

ところで、Sinopec のサウジアラビアとの関係で注目されるのは、中国国内の下流部門における両社の協力である。

2007 年 2 月、Sinopec は Saudi Aramco および ExxonMobil と、①福建省の泉州製油所の能

³² Fesharaki (070712) ; その他

³³ “Sinopec wins €2.2 billion Iran contract”, *Xinhua*, August 4, 2006; “Sinopec invests heavily in Iran refinery project”, *SinoCast*, August 3, 2006

³⁴ “Saudi Arabia, China sign natural gas deal”, *Xinhua*, March 8, 2004; “Sinopec to explore Saudi reserves”, *People’s Daily Online*, March 10, 2004

³⁵ “Saudi’s Empty Quarter: Gas hunt comes up empty”, *Middle East Economic Digest*, December 7, 2007

力を 3 倍 (24 万 b/d) に拡張する——重質原油処理のための改造を含む——とともに、同地に石油化学工場を建設するための契約、また、②同省における約 750 の給油所およびターミナル網の管理・操業に関する合弁企業を設立するための契約に調印した。上記の工事は 2009 年初には完成する予定であり、その暁には、Aramco の重質原油が処理されることになっている。これらの事業に関して設立される合弁企業の持分は、①については Sinopec の子会社 (福建省政府と 50% ずつの持分で設立する会社 : Fujian Petrochemical Company Limited) が 50%、他の 2 社が各 25%、また、②については Sinopec が 55%、他の 2 社が各 22.5% である³⁶。

これらの取り決めは、Sinopec が 2006 年 4 月、Saudi Aramco との間で取り交わした戦略的提携を強化するための覚書 (MOU) に基づいている、と見られる。この MOU の中で Saudi Aramco は、上述の福建省泉州にある製油所の改修および石油化学工場の建設——Aramoco と Exxon Mobil が参加する——の他、Sinopec が山東省青島に建設中の製油所への Aramco の参加、さらに、Aramco が Sinopec に対して 2010 年までに 100 万 b/d の原油を供給することなどが謳われていた³⁷。これらの契約はこれら 3 者が 12 年にわたって断続的に行なってきた交渉の結果である、と言われている³⁸。

青島製油所はすでに完成して、2008 年 4 月から操業を始めることになっており、Aramco は 50% の持分を取得するであろう、と伝えられている³⁹。

中国の下流部門における Sinopec のサウジアラビアとの関係は Aramoco 以外の会社との間でも形成されている。2008 年 1 月、Sinopec とサウジアラビアの Saudi Basic Industries Corporation (SABIC) は、各 50% の出資により合弁会社を設立し、天津にエチレン誘導品生産工場を建設することについて基本的な合意に達した (最終的な契約は 2008 年末までに結ばれることになっている)。原料は Sinopec の全額出資子会社である天津石油化工有限公司が建設中のエチレンプラントから供給される。

SABIC が中国に合弁会社を設けるのは今回が初めてである。SABIC は 2020 年には世界トップクラスの石油化学企業になることを目標としており、今回の提携は同社がアジアに生産基地を設ける上で大きな一里塚となる。SABIC は今後とも、中国という重要な市場——ExxonMobil の予測では、中国は 2015 年には世界の化学品需要の 4 分の 1 を占めるであろう——において、より多くの合弁会社を設けるとともに、Sinopec との関係をさらに発展させ

³⁶ ExxonMobil のホームページ; Sinopec, Exxon, Saudi Aramco ink China Fujian refinery deal”, *Dow Jones*, February 25, 2007; “Aramco, Sinopec, Exxon sign Fujian refinery deal”, *Reuters*, February 25, 2007

³⁷ “Saudi, Chinese companies sign deal on oil, gas production cooperation”, *BBC*, April 24, 2006

³⁸ “Exxon, Aramco and Sinopec in two joint ventures”, *AP*, March 30, 2007

³⁹ “Saudi Aramco to take 50% stake in Sinopec's Qingdao refinery”, *Bloomberg*, March 6, 2008

る、という意向を表明している。なお、Sinopec の技術者は SABIC によるサウジアラビアのヤンブーでの石油化学工場建設に協力している⁴⁰。

なお、Sinopec はクエートとの間でも、広東省に共同で製油所と石油化学工場を建設する計画を持っている。これは 2005 年 12 月に中国とクエートの間で結ばれた覚書に基づく計画であり、建設される製油所ではクエート原油が処理されることになっている。Sinopec と Kuwait Petroleum Corp.による計画は 2007 年 12 月、国家発展改革委員会によって承認され、両社の他の参加者として、シェル、BP、ダウなどの名前が伝えられている⁴¹。ただし、その後、建設地点周辺における環境保全への要求の高まりから、この計画の実際の着手は中央政府による環境評価の結果を見てから決定されることになった⁴²。

カザフスタン：

2004 年 8 月、Sinopec はアメリカの First International Oil Company (FIOC)を買収し、同社がカザフスタン北部のカスピ海周辺に持っていた石油・ガスの探鉱・開発鉱区を手に入れた⁴³。

イエーメン：

Sinopec は 2005 年 1 月、イエーメンで 2 つの陸上鉱区を取得した⁴⁴。同社はその後、2007 年 12 月には、これら 2 つの鉱区における 40%の権益を Total に譲渡した。これらのうち、鉱区 69 は同国中部の Marib Basin にあるが、この地域は建設中の LNG プラントで原料となる天然ガスの供給源になることが予定されている。また、もう 1 つの鉱区 71 は同国東部の Masilah Basin にあり、その近くにある鉱区 10 は Total が 20 年来、操業してきた鉱区である⁴⁵。

上記の LNG プラント——Yemen LNG 社が所有し、Total が 39.6%と同社の最大株主であ

⁴⁰ 「Sinopec がサウジの SABIC と合弁で天津に 100 万トン・エチレン生産ライン建設」、*中国能源網*、2008 年 2 月 1 日；“Sabic, Sinopec to sign final Tianjin accord by year-end”, *Bloomberg*, April 14, 2008; “SABIC, Sinopec in deal to build ethylene plant”, *Arab News*, February 1, 2008

⁴¹ “China’s planning agency approves Kuwait Petroleum refinery project in southern China”, *AP*, December 5, 2007; “Sinopec-Kuwait refinery is to go ahead in Guangdong”, *Shanghai Daily*, December 6, 2007; “Kuwait: Dawlat al-Kuwayt is seeking to drop Shell for \$5bn refinery”, *bajaenergyblog*, September 26, 2007 (<http://www.zimbio.com/Could+an+Oil+Refinery+be+coming+to+South+Dakota/articles/3/KUWAIT+Dawlat+al+Kuwayt+seeking+drop+Shell>) などによる。

⁴² “Green challenge to China’s mega-projects”, *China Business*, March 20, 2008; “Reps demand shelving of Sinopec-Kuwait plant”, *eeo.com*, February 28, 2008 (<http://www.eeo.com.cn/ens/Industry/2008/02/28/92939.html>)

⁴³ CCR (070606)

⁴⁴ “Petroleum: Sinopec in Yemen”, *Yemen Times*, January 17 to 19, 2005

⁴⁵ “Total farms into two onshore blocks in Yemen with Sinopec”, *secinfo.com*, December 5, 2007 (<http://www.secinfo.com/d1BAg8.tb.b.htm#1stPage>)。以下では、secinfo (071205) と略す。

る——は 690 万トン/年の LNG 生産能力を持ち、2008 年末頃には完成する予定である。すでに、Yemen LNG と Suez LNG Trading、Kogas および Total Gas & Power との間でそれぞれ 20 年間の供給契約が結ばれている⁴⁶。なお、CNOOC はアメリカの Hunt Oil が Yemen LNG に持っている 17.2%の権益を取得すべく同社と交渉したことがある、と伝えられている⁴⁷。

カナダ：

2005 年 5 月、Sinopec は Syneco Energy 社のオイルサンドプロジェクト（アルバータ州北部の Northern Lights Oil Sands Project）に 40%参加した。このプロジェクトは 2010 年に商業生産を開始し、10 万 b/d の合成原油を生産すると見込まれている。

アンゴラ：

Sinopec は 2006 年 4 月、SSI（Sonangol Sinopec International）を通じて 3 つの鉱区（鉱区 15、17 および 18）を取得した。SSI はアンゴラの Sonangol と Sinopec がそれぞれ 25%、75%を保有する会社である。Sinopec はこれらの鉱区で 2007 年には 10 万 b/d の石油生産が始まることを期待していた⁴⁸。事実、2007 年 10 月、これらのうち鉱区 18 では原油の生産が始まった。この鉱区の権益は BP と SSI が 2 分の 1 ずつ持っており、BP がオペレーターである。2007 年 10～11 月現在、この鉱区における生産量は 2008 年初には 22～24 万 b/d の水準に達するであろう、と見込まれていた⁴⁹。

他方、Sinopec は 2006 年 3 月、アンゴラ政府との間で製油所建設に関して合意に達していた。同製油所の常圧蒸留能力は 24 万 b/d で、上記の Sonangol が 70%、残りを Sinopec が保有することになっていた⁵⁰。しかし、2007 年 3 月、Sinopec はこの計画へ参加しないことが明らかになった。その理由は、生産する石油製品の仕様——あるいは、製品の仕向け先（アンゴラ側は国内へ、中国側は中国へ）——に関する両社の食い違いにある、と言われている⁵¹。

ロシア：

⁴⁶ secinfo (071205) ; “Total’s Yemen LNG on course to start late 2008”, *Reuters*, February 21, 2008

⁴⁷ “CNOOC to acquire Yemen LNG”, *Shanghai Daily*, January 29, 2007

⁴⁸ “China’s Sinopec wins bid for stakes in Angola oil blocks”, *XFN-Asia*, June 13, 2006

⁴⁹ BP のホームページ(2007 年 10 月 2 日); “Angola’s Greater Plutonio starts flowing”, *African Review of Business and Technology*, November 1, 2007

⁵⁰ “Angola grants deal to Sinopec”, *International Herald Tribune*(以下、IHT と略す), March 21, 2006

⁵¹ “Africa plans a slew of crude refineries, but only likely”, *Gulf Times*, March 12, 2008; “Oil company undertakes construction of Lobito refinery”, *Angola Press Agency*, May 16, 2007; その他

2005 年 6 月、Sinopec は Rosneft との間でロシアにおける 4 鉱区の開発についての協力を関する議定書に調印した。次いで 7 月、胡錦濤とプーチンがモスクワで会談した際、Sinopec は Rosneft との間で、サハリン 3 のヴェニン地区における地質探査向け合弁会社の設立に関する議定書に調印した。その後、2006 年 10 月には、その合弁会社が設立された。

サハリン 3 はサハリン 2 と並んで、2030 年までの期間におけるロシア極東地域からのガス輸出の主要源となることが期待されている。その後、この鉱区では Sinopec が Rosneft とともにガス開発を進めており、2006 年から 2007 年にかけて試掘を行ってきた⁵²。Rosneft のボグダンチコフ社長は 2007 年 10 月、Sinopec のサハリンにおける試掘作業は順調に進捗しており、大型ガス油田を発見する見込みがある、と述べている⁵³。

一方、Sinopec は 2006 年 6 月、Udmurtneft 社 (TNK-BP の子会社) の株式の 97% を取得し、さらに、Rosneft との間で Udmurtneft を管理する会社をそれぞれ 49% と 51% の持分で設立した。Udmurtneft の原油の 60% 以上はウラル - ヴォルガ地域で生産されている⁵⁴。

同社の原油生産量は 2007 年 1 月～11 月に前年同期に比して 3% 増加している⁵⁵。そこで、原油生産量は 2007 年全体でも対前年 3% の増加を示したと想定すると、615 万トン、すなわち約 12 万 b/d になる。したがって、Sinopec の権益分は約 6 万 b/d である。同社の 2007 年の外国における原油生産量は 13 万 1,000b/d であったから、Udmurtneft による生産はその約 45% に当たる。

コロンビア :

2006 年 9 月、インドの ONGC と共同で、アメリカの Omimex Resources 社から石油・ガス資産 (陸上) を取得した。

オーストラリア :

2008 年 3 月、Sinopec は AED Oil 社がチモール海に持つ 2 油田の権益の 60% を取得した。これらの油田は 6,000～10,000b/d の原油を生産している⁵⁶。

⁵² S. Blagov, "Russia develops electricity, oil partnership with China", *Eurasia Daily Monitor*, February 12, 2007; "Sinopec drills second well in Sakhalin-3", *Neftegaz.RU*, November 1, 2007

⁵³ 人民網、2007 年 10 月 7 日

⁵⁴ TNK-BP のホームページ、その他による。

⁵⁵ "Udmurtneft ups oil production 3% in 11 mths", *Interfax*, December 5, 2007

⁵⁶ "Australian deal puts Sinopec in control of Timor Sea ventures", *Shanghai Daily*, March 8, 2008; "AED sells 60 pct of assets to Sinopec for \$556 mln", *Reuters*, March 7, 2008

Sinopec は以上の諸国に加え、キルギスタンおよびトルクメニスタン——これら両国とは石油・ガス開発に関する役務提供契約を結んでいる——、さらに、インドネシア、アルジェリア、アゼルバイジャン、モンゴルなどの上流部門に進出している。

以上に述べた Sinopec の外国進出において特に注目すべき点は、次の通りである。

まず、外国進出の最初の対象国として、アフリカの有力な産油国であるナイジェリアが選ばれた。その後、2006 年に Sinopec は同じくアフリカの有力な産油国であるアンゴラにも進出を果たした。同国における同社の原油生産量はかなり大きなもの——上述のように、2008 年初において、22～24 万 b/d の 2 分の 1 の 75%、つまり 8～9 万 b/d——になるのではないかと見られている。これら両国で Sinopec は石油精製、その他の下流部門における事業にも投資しようとする姿勢を見せている。

次に、同社の進出先の中では、イラン、サウジアラビア、イエメンなど西アジア諸国の比重がかなり大きい。しかも、イランとの間では、LNG 輸入についての交渉が行われ、サウジアラビアとの間では、中国国内における製油所や石油化学工場の建設について計画が進められている。Sinopec はイエメンにおいても、LNG 輸入と絡むのではないかと見られる動きを示している。なお、Sinopec はクエートとの間でも、中国国内における製油所や石油化学工場の建設について、サウジアラビアと同じような提携関係を実現しようとしている。

ただし、Sinopec の外国における最大の原油供給源はアフリカおよび西アジアではなく、ロシアであると見られる（2007 年）。しかし、上述のように、今後はアンゴラが生産量がロシアを上回るかもしれない。

<参考>

CNPC が Rosneft との間で上述のような合弁会社を設立する以前の時期においても、少なくとも、後者の Yukos 買収に関連して前者がロシア原油の輸入代金を前払いする、という「協力関係」が築かれていた。この動きは、2004 年 12 月下旬から 2005 年 2 月上旬までの 1 ヶ月余りの期間におけるものである。以下に、その概略を紹介する。

ユーコス事件は 2003 年 10 月、ロシア最高検察庁がユーコスのホドルコフスキー社長を起訴し、ユーコス株 44%を差し押さえたことによって始まった。その後、ユーコスに対して巨額の追徴課税の徴収を強制執行するという決定（2004 年 7 月）、ロシア国税庁によるユーコスとその子会社、ユ

ガンスクネフテガス (Yuganskneftegas) への 100 億ドルの追徴課税支払いの命令 (同年 11 月) などを経て、この事件は、2004 年末に 1 つの山場を迎えていた。

それは、ユーコスが 12 月 15 日、アメリカ・テキサス州の連邦破産裁判所に対して、資産保全を求めて、アメリカ連邦破産法の適用を申請していたからである。翌 16 日、同連邦破産裁判所は、買収に名乗り出ていたロシア企業ガスプロムおよび同社への融資団 (JP モルガン、ドイツ銀行など) に対して、株式競売への参加を差し止める命令を出した。同 19 日、バイカル・フィナンサーグループ (Baikal Finans Group) がユガンスクネフテガス株を落札し、さらに同 21 日には、プーチン大統領がユガンスクネフテガスの運営に中国企業が参加する可能性を示唆した⁵⁷。

このような動きにも拘らず、ユーコスはその後 1 ヶ月余りの期間において、アメリカでの法廷闘争を再開する。2005 年 2 月 11 日、ユーコスは再び資産保全を求めて、ガスプロム、ガスプロムネフチ、バイカル・フィナンサーグループ、ロスネフチの 4 社を上記連邦破産裁判所に提訴した⁵⁸。しかし、2005 年 2 月 24 日、同連邦破産裁判所はこの訴訟を却下した⁵⁹。これによって、ユーコスのアメリカでの法廷闘争は終わりとなった。

一方、2005 年 1 月初め、ロシアのヴィクトル・フリステンコ産業・エネルギー相とロスネフチのセルゲイ・ボグダンチコフ社長は北京を秘密裡に訪問し、CNPC、その他の関係者と会談した。この会談では、2010 年までにロシアが中国に対して 4,800 万トン余りの原油を供給することに関する政府間の協定およびロスネフチ-CNPC 間の契約の案文が協議され、ロスネフチ-CNPC 間の契約の条文にしたがって、CNPC は石油供給を担保にしてロスネフチに対し 60 億ドルの貸付を行なうことになった⁶⁰。また、この秘密訪問では、ロシアが発表した太平洋石油パイプライン建設計画と、それに関連してユーコスの子会社、ユガンスクネフテガスを中国の石油会社に売却する案についても、協議が行なわれた⁶¹。フリステンコはこの訪問に先立ってモスクワで、CNPC がユガンスクネフテガスの 20% の株式を提供されるかもしれない、と発表していた。

上記のロスネフチ-CNPC 間の契約は 2005 年 1 月後半に最終的に締結され、上述の通り、同契約に基づいて、2005 年から 2010 年までに供給される 4,800 万トン余りの原油を担保として、60 億ドルの資金が CNPC からロスネフチに貸し付けられることになった⁶²。

⁵⁷ 以上の記述は、朝日新聞 (2004 年 12 月 17 日)、日本経済新聞 (2004 年 12 月 20 日、23 日)、ならびに、"Yukos auction sows investor fears", *IHT*, December 22, 2004 による。

⁵⁸ "Yukos files lawsuit for \$20 billion", *IHT*, February 14, 2005

⁵⁹ "US judges bars Yukos request", *IHT*, February 26-27, 2005

⁶⁰ "CNPC ready to allocate \$6 billion to Rosneft under guarantees of oil supply to China", *The Russian Oil and Gas Report* (以下、*ROGR* と略す), January 19, 2005。

⁶¹ "Politics and oil mix in Russian-China talks", *IHT*, January 12, 2005

⁶² "Rosneft to become the main supplier of Russian oil to China", *ROGR*, January 26, 2005、ならびに、"Rosneft promises to supply China with 50m tons of crude by 2010", *China Oil, Gas & Petrochemicals* (以下、*COGP* と略す), February 1, 2005

2005 年 2 月 1 日、ロシアのアレクセイ・クドリン (Alexei Kurdin) 財務相は、①同国の国営銀行である Vnesheconombank が中国輸出入銀行を含む中国の複数の銀行から 60 億ドルを借り入れたこと、②この資金が最終的にはロスネフチに貸し付けられたことを明らかにした⁶³。他方、中国の外務省スポークスマンは 2 月 3 日、中国がロシアの石油会社に対してユーコスの子会社を買収する資金を提供したことを否定し、また、ロスネフチも、CNPC との契約に基づいて 60 億ドルの前払い金を受け取ったことは認めたものの、それはユーコスの子会社買収のために使われるのではない、と声明した⁶⁴。

その後、両者の間では、長期協力協定が結ばれるに至る。それに関連する動きは以下の通りである。

2005 年 7 月初め、中国の胡錦濤国家主席のロシア訪問に合わせて、中ロのエネルギー関係会社の間で 2 つの協定が締結された⁶⁵。1 つは、ロスネフチと Sinopec がサハリン 3 地域において石油・ガスの探鉱を行なう共同会社を設立するための協定である。もう 1 つは、ロスネフチと CNPC との間の長期協力協定であり、両社がサハリン沖合で石油・ガス探査を行なうこと、ならびにロスネフチが中国への石油・ガス輸出を拡大することを含んでいた。次いで、2006 年 3 月には、ロシアのプーチン大統領の中国訪問に合わせて、両社間で協力実施のための合意書 (a protocol agreement for an integrated cooperation) が取り交わされ、その中には、ロシアにおける石油の探鉱・開発および中国における石油精製・販売の実施が謳われた⁶⁶。

この合意書に基づいて、2006 年 10 月には、両社間で Vostok Energy 設立のための合意書が取り交わされた。さらに両者は 2007 年 11 月、天津に製油所を建設することにつき合意した。この製油所は 20 万 b/d の常圧蒸留能力を持つことになっている⁶⁷。

(続く)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>

⁶³ “China’s cash behind Russia’s Yukos deal”, *IHT*, February 3, 2005, および “China provides \$6 billion to help Russia finance Yukos unit purchase”, *China Energy* (以下、*CE* と略す), February 5, 2005

⁶⁴ “China denies role in Yukos sale”, *IHT*, February 4, 2005

⁶⁵ “Rosneft signs oil and gas agreements with Chinese companies”, *CE*, July 8, 2005; “Sino-Russian oil pipeline update”, *COGP*, July 15, 2005; “First section of Taishet-Nakhodka pipeline to start construction in December”, *COGP*, August 1, 2005

⁶⁶ “CNPC invests \$500M in Rosneft’s IPO”, *Xinhua*, July 19, 2006; “Rosneft, CNPC close to registering joint oil refinery venture”, *Interfax*, September 25, 2007

⁶⁷ “China, Russia to build 10-mln-ton oil refinery in Tianjin”, *Xinhua*, November 24, 2007